

平成22年(2010) 7月5日

発行所 (株)日本事務機新聞社

編集発行人 藤本忠男  
本社 大阪市西区江戸堀1-23-11  
(〒550-0002)電話 06(6448)1066  
FAX 06(6448)7836

郵便振替口座 00940-4-24894  
取引銀行 三井住友銀行大阪本店  
購読料 年間12,600円

# 日本事務機新聞

No.1897 (毎月第1.2.4月曜日発行)  
(昭和45年3月27日第三種郵便物認可)

Press The Japan Business Machine

http://www6.ocn.ne.jp/~jimuki Eメール njs@skyblue.ocn.ne.jp

使用済用紙を再生紙に

## 小型製紙装置を開発

### デュプロ

デュプロ精工(和歌山県紀の川市 池田弘樹社長)

は、使用済みコピー用紙を溶解し、インクと繊維に分離させ、真っ白な100%再生紙に甦らせる小型製紙装置「RECOTIO PM1000」を開発した。

デュプログループはペーパーワークに関わるさまざまなソリューション機器を提案している。同製品は、環境保全が重要視される時代だからこそ生まれた新しい古紙リサイクル装置。

デュプログループは、紙のリサイクルだけにとどまらず、CO<sub>2</sub>発生抑制や情報漏えい防止にも優れた小型製紙装置を新たに提案することで、環境保全と機密保持に貢献していく。

現在、紙のリサイクルは、製紙工場などの大型施設にて行つのが主流だが、同製品は自治体や学校にも置くことが可能な大きさの小型製紙装置となる。

目標販売台数は年間400台(初年度50台)としており、紙を身近にリサイクルできる文化を根付かせたいという願いをこめて開発した。

今回、同製品を「第1回エコオフィスEXPO」に初出展する。デュプロブースで、エコを実感することができる。

【小型製紙装置(PM1000) 商品特長】

①消えて安心、キレイによみがえる

・世界初のインク除去機能を搭載し、新生紙並みの真っ白な用紙に再生する。

・用紙を繊維段階まで分解するので、確実に機密保持が可能。

②Save the earth 想いをかたちに

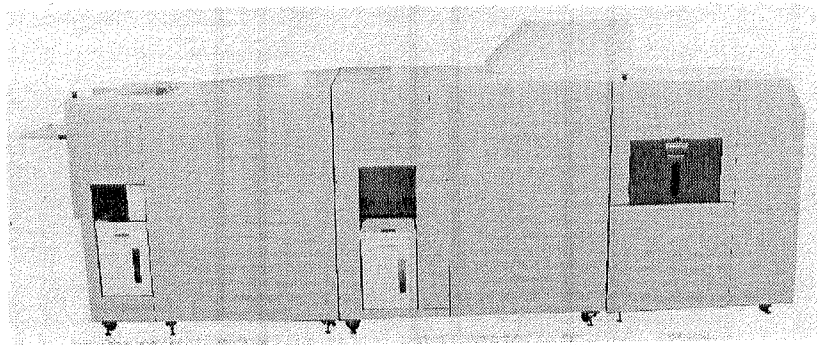
・使用済み定型用紙やシユレッター紙を100%再生紙としてリサイクル可能。1時間にA4サイズの用紙が360枚で上が

る。

・新生紙を購入するよりCO<sub>2</sub>を約65%削減できるため、環境保全に大いに貢献

また、デュプログループは、「我々は環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し「環境と調和」をスローガンとして、地球

みならず、カーボンフット(二酸化炭素の埋め合わせ)を実施することでデュプロの環境対策をより推進していくべきと判断し、デジタル印刷機インク(U、S、eシリーズ)におけるカーボンオフセットを開始した。



「RECOTIO PM-1000」

環境の保全と社会への貢献を目標として活動する。』を合言葉に、製造や流通過程における3Rの推進や、プリンタの省エネ化に取り組みてきた。温暖化対策が喫緊の課題となるなか、省エネタイプの印刷機を製造・販売するなど、実際のCO<sub>2</sub>排出削減の